

## 2021 年全豪オープン短評 (3)

### バーティの敗因

地元の期待を一身に担ったバーティが 5 回戦でチェコのムチョヴァに敗れ、悲願の全豪制覇はならなかった。第 1 セットを簡単に 24 分で取ったバーティに何が起きたのか。

#### ムチョヴァのプレースタイル

ムチョヴァとバーティはともに 24 歳で、プレースタイルは非常に似通っている。ストロークで押すタイプで、バックハンドは両手打ちだが、スライスは片手打ちであることも同じである。双方とも、サーブスピードは平均的で、速くもなく遅くもない。いわゆる技巧派に属するオールラウンダーである。大坂なおみが苦手とするタイプである。違うのは身長だけ。ムチョヴァは 180cm だが、バーティは 165cm と小柄だ。見た目にも一回り体が大きいムチョヴァの方が、体力があるだろうと想像される。

ムチョヴァはランキングこそ低いが、シユアなテニスをすることで知られている。チェコの次代のホープである。ただ、安定性に欠け、肝心な試合に勝てないことが、ランキングを上げられない最大の要因だった。ところが、今年的全豪で一皮むけた。次戦は全米で大坂と熱戦を展開したブレーディである。ここも熱戦が期待できる。

さて、第 2 セットに入ってもバーティの優勢は動かず、2-1 でバーティがリードしたところで、ムチョヴァがメディカル・タイムアウトをとった。本人によれば、暑さでクラクラしたというが、いったん呼吸を落ち着かせ、さらにロッカールームに戻ることで気分が一新させた。この作戦的なタイムアウトが、ゲームを反転させた。

ここまでゲームカウントで圧倒されたムチョヴァだが、プレー内容がそれほど悪かったわけではない。お互いに厳しいラリーの連続だったが、大舞台の経験が豊富なバーティがポイントを重ね、リードする展開だった。

タイムアウト後のムチョヴァは息を吹き返したかのように、ストローク合戦に粘り強く対応し、自分からミスすることがなくなった。それに対応して、バーティのストローク感覚が鈍ってきた。

#### バーティの弱点

バーティの弱点を上げるとすれば、サーブである。体力的に速いサーブは期待できない。大坂のようにピンチを 1 本のサーブエースで切り抜けることができない。ストローク合戦は体力を消耗する。だから、大坂やウィリアムズのように、剛球サーブをもっている選手は勝負所でエネルギーを節約して踏ん張ることができるのたいし、バー

ティにはかなりの負荷がかかる。

もう一つ。この大会のドローである。昨日の短評で記したように、バーティが属するドローの上の山には強敵がおらず、バーティはきわめて楽な試合を重ねてきた。簡単に勝ち上がりすぎると、強敵に出くわした時の、「ここ一番の力」が出づらい。今年の大坂のドローは厳しいものだった。緒戦からランク 50 位内の選手を相手にする異例の展開で、連続して難敵を相手にしてきた。この直近の経験値が、「ここ一番」の勝負所で生きてくる。

今大会のバーティのドローが、終盤の肝心な試合になって裏目に出た。勝負は難しい。グランドスラム大会では強敵だった選手が不調で、マークしていない選手が勝ち上がる。あらゆるタイプの選手と対戦し、優勝までに 7 戦の勝利が必要である。

世界ランク 1 位を維持していたチェコのプリシュコヴァはいまだにグランドスラム大会を制覇できていない。若手のヘニン、アンドレスク、オスタペンコ、シフォンテックなどの若い選手も、一度制覇したグランドスラムタイトルを重ねるのが難しい。そのなかで、大坂が 4 度目のグランドスラム制覇を目指して、セリーナ・ウィリアムズと対戦する。

準決勝の対戦で、大坂とウィリアムズは中 1 日の試合だが、ムチョヴァとブレイディは連戦となる。これが決勝戦にどう影響するかも注目したい。朝晩は涼しいメルボルンだが、日中は暑い。決勝までの 2 試合は体力勝負でもある。